



◆田中 敏弘 議員

防災士との協働・連携は

町長 前向きに検討を進める

自然災害発生率が年々高くなり、新型コロナ禍の中、複合災害の発生が危惧される。防災士との協働・連携を深めるべきと思う。

問 近隣市町では防災士組織が発足しているが、本町でも協議会を発足させ、連携を深めるべきと思うが。

答 目標人数を定めていないが、各区に1〜2名いれば大規模災害時に有効であると考えている。

問 本町において67名が防災士の資格を取得しているが、相互に連携する組織はない。協議会が設立されれば、防災士間で情報共有が可能になるだけでなく、防災士による出前講座の実施等、町の防災意識の向上に有効な部分は多いと考えるので、前向きに検討する。

答 町職員の防災士取得者は1名と少ない。計画的に増やし常時20名は確保すべきと考えるが。

問 養老町の防災士資格取得人数は少ないが。

答 職員の防災士取得人数は近隣市町と比較しても少ない状況である。防災力向上において非常に重要であること認識し、職員に対し、随時周知を行い、自発的な手上げ方式により防災士を確保したい。



日本防災士機構パンフレット

フレイル予防対策は

町長 積極的な予防の推進は重要

新型コロナウイルスの影響で外出を控えている高齢者のフレイルが進行する恐れがある。種々施策を講ずべきと考える。

問 フレイルの現状・解決策は。

答 「介護予防・日常生活圏域二ミズ調査」を実施した。高齢者の足腰が弱くなっていることから、前期高齢者の時点から積極的なフレイル予防が必要。また、男女とも85歳以降に「ほとんど外出しない」の割合が急増。人との交流を避ける生活は、心身ともにフレイルに繋がる。健康寿命の延伸には「いきいきふれあいサロン」など通いの場の拡充等による介護予防の推進が重要であると考えている。

問 医師会・介護施設との連携・協力体制は。



すこやか健診を受けましょう

問 医師会とは町内11箇所の医療機関で、フレイル予防も踏まえ、検診できる体制を

ほかに「上下水道事業」の質問もしました。

消防団「鳶はしご」の今後は

町長 消防団で調整中

1300年祭での演技披露を目的に団員からメンバーを集い結成された。その後は消防団のPR事業の一つとして継続されている。

問 今後の消防団における鳶はしごに対する方針は。

答 今年はじめ頃、新聞社の取材に対して町は、地区から消防団への「協力金については把握している」「出不足金については無いという認識」と答えているが、町としてこの認識で間違いないか。

問 別の団体へ移行する場合は、消防団としての身分は、消防団としてか。

答 報道のとおりである。

問 別団体にすれば消防団員としては属さない、ということになる。

答 構成員としてかなりの人数が携わっているが、年間58万円しかない予算で賄えているのか。

問 町からの予算の他に、県の消防協



今年の出初式での鳶はしご

新型コロナ患者の把握は

町長 県が公開している情報のみ

問 町内の医療施設で確保されているベッド数、現在の占有率、他市町からの受け入れ状況は。

答 町の担当課に確認したが、地域間の不安を考慮して非公開との回答。町が把握できている情報は公開されている情報のみ。

問 行動や濃厚接触者の情報が公開されているケースもあるが、当町のケースでは年代、性別、発症日が公開されているだけ。情報量の違いは何か。また、町から県へ問い合わせはしているか。

答 いわゆる第2波以降は「コロナハラスメント」の防止を考慮して必要最小限の情報だけを提供しているとのこと。また、県に対して

問 医療施設にどれだけの患者がいるか把握できない状況では、災害発生時の救助避難にも支障が出る。市町村の首長連名で県へ情報提供を求めることを提案するが見解は。

答 詳細な情報提供の依頼は行っている。



新型コロナに関する岐阜県HP

ほかに「スーパーサシの進捗状況」と「町コミ」袋の利便性改善案についての質問もしました。